By Bethany Cummings

ベサニー・カミングス

1996年、英国ウェールズ生まれ。子どもの頃に見たスタジオジブリ制作のアニメなどをきっかけに日本に興味を持ち、スコットランドのエディンバラ大学で日本語とアジア学を専攻。在学中に交換留学生として岡山大学で10カ月間学ぶ。2018年から東京都大田区役所で国際交流員として勤務し、文化や言語の架け橋として、外国人区民をサポートしながら大田区や母国の魅力を紹介している。区のホームページで「ベサニーの大田区絵日記」を公開中。
https://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/kouryu/cir.html

A Welsh fable warns about judging man's best friend

It is often said that a dog is man's best friend. Perhaps that is why there are so many stories about the loyal friendship between a man and his dog. In Japan, there is Hachiko, and in Scotland, there is Greyfriars Bobby. In my home country, Wales, we have Gelert.

It is the tale of a prince named Llywelyn and his precious dog, Gelert.

One day, the prince called his dog to go hunting with him as usual, but Gelert did not respond. The prince decided he **had no choice but** to go hunting without him.

Leaving their baby at home asleep, the prince and princess went to hunt. However, when they returned home, they found their baby's **cradle overturned** and Gelert with his mouth **dripping with** blood.

Llywelyn, believing the worst and blinded by anger, **drew his sword** and killed his dear dog. Gelert **fell to the ground** and **let out** a **howl**, and from the corner of the room could be heard a small cry. It was then that Llywelyn **realised** what he had done.

In the corner of the room **lay** a wolf covered in blood and beside the wolf was his son, completely unharmed. Llewelyn had killed his precious dog, who had actually **protected** his son from a wolf that had gotten into the **chambers**.

Whether this story is based on truth or not, Gelert's loyalty and unfortunate death **reminds** people of the importance of **evaluating** a situation fully before **jumping to conclusions**.

Welsh
（見出しから）ウェールズの

fable
（見出しから）寓話。後出の tale は「物語、作られた話」

had(have)…but
～するしかなかった、やむを得ず～した

cradle
ゆりかご

overturned
ひっくり返った

drip(ping) with
～をしたたらせている

drew(draw) his(one's) sword
彼の剣（刀）を抜いた

fell(fall)…ground
地面に崩れ落ちた、倒れた

let out
（声を）上げた、発した

howl
うめき声

realise(d)
（英国英語つづり）～に気付いた。米国英語は realize(d)

lay(lie)
横たわっていた

protect(ed)
～を（from 以下から）守った

chamber(s)
部屋、寝室

remind(s)
～に（of 以下を）思い出させる、気付かせる

evaluate(-ing)
～を判断する

jump(ing) to conclusion(s)
結論を急ぐ

対訳 あるウェールズの寓話が、「人間の最良の友」を早計に判断しないように警告します

「犬は人間の最良の友」とよく言われます。人と犬の厚い友情を描いた物語が数多くあるのは、恐らくこのためでしょう。日本には忠犬ハチ公がいて、スコットランドには（亡き主人の墓を守り続けた）グレイフライアーズ・ボビーがいます。そして私の故郷ウェールズには、ゲラートがいます。

これは、リウェリンという名前の王子と、その愛犬ゲラートの物語です。

ある日、王子はいつものように、狩りのお供に連れて行くためゲラートを呼びます。しかし呼びかけに応じませんでした。王子は仕方なく、ゲラートなしで狩りに行くことにしました。

寝ている赤ん坊を家に残し、王子は王女と一緒に狩りに出かけました。しかし、家に戻ると赤ん坊が寝ていた揺りかごはひっくり返り、ゲラートの口からは血がしたたり落ちていました。

リウェリン王子は最悪の事態が起きたと思い込み、怒りで我を忘れて剣を抜き、愛犬を殺してしまったのです。ゲラートは床に倒れ込み、うめき声を上げました。すると部屋の隅から、か細い泣き声が聞こえてきたのです。その瞬間、リウェリン王子は自分が何をしたのか悟ったのでした。

部屋の隅には血まみれになったオオカミが横たわり、そのそばに傷一つない赤ん坊がいました。リウェリン王子は、部屋に侵入したオオカミから赤ん坊を守ってくれた大切な犬を殺してしまったのです。

この話が実話かどうかは別にして、ゲラートの忠誠心と悲惨な死は、結論を急ぐ前に状況をしっかりと見極めることの大切さを私たちに教えてくれます。

（訳　田端節子）